文化・芸術

「山果春秋」
1975～85年ごろ頃、紙本彩色

工藤甲人（1915～2011年）

《名画の扉》 大川美術館常設展示から

秋の季節をテーマにした常設展示室（10月10日～）から紹介いたしましょう。

青森県弘前市に生まれた工藤甲人。その精力的な制作活動は96歳で亡くなるまで衰えることがありませんでした。戦後は郷里でしばらく農業に従事したのち、制作を再開させ、以後数々の賞を受けました。1971年からは東京芸術大学で後進の指導にもあたり、つねに新しい日本画の創造をめざします。

「画家は心の底に闇を持ち、闇から生まれたイメージを光の中に解き放つことが必要だ」と語った工藤。薄紫色に膨らんだアケビの実が熟して割れた様子に、自然界の神秘をとらえています。工藤独自の夢想世界が季節の移ろいのなかに表現されました。

◇

※大川美術館は、現在展示替えのため休館しています。10月10日から「広島市現代美術館所蔵作品を中心にpart1…霞光と同時代の仲間たち」「丸尾康弘展　いま、こどもたち」が開幕します。

（小此木）